

町村週報

(町村の購読料は会費)
の中に含まれております

2509号

毎週月曜日発行

発行所 **全国町村会** 〒100 0014 東京都千代田区永田町1丁目11番35号：電話03 3581 0486 FAX03 3580 5955

発行人 谷合靖夫：定価1部40円・年間1,500円(税、送料含む) 振替口座00110 8 47697

<http://www.zck.or.jp>

閑話休題

卒業や就職の季節。どうしたらよいか悩んでいると、若い人が時々やってくる。亡くなった作家の開高健さんが、どうしても書けなくなった小説家が、小説を書けなくなつては、終わりである。大先輩の作家の井伏鱒二さんのところへ相談に行った。「先生どうしても書けないんです。どうしたらいいんでしょう。」井伏さんは「まあ書くことだね」それが書けないので相談にきたんです。」すると井伏さんは、にこにこしながら「それでも書くことですよ」という。なんべん聞いても「それでも書くことですよ」としか答えなかったという。とにかく、一步を踏み出して、やってみないことには、すべてが始まらない。



屈斜路湖のオオハクチョウ (北海道弟子屈町)

一步踏み出す

エッセイスト 山本兼太郎

上方落語の桂米朝さんが、若いころに話の数をふやして自分のものにしていった。年をとってから、その一つ一つを磨けばよいというのである。俳優の小沢昭一さんはかつてこの話を右から左へ聞き流していたが、年をとってくると、これこそ

「芸」の基本であるばかりでなく、人生の貴重な教訓だと思つようになつたと著書の中でいっている。桂米朝さんは、戦後の荒廃した上方落語を復興した人で、人間国宝と文化功労者の肩書きを持つ人である。

江戸時代の儒学者の佐藤一斎は、

人の生き方を説いて、明治維新のひとに大きな影響を与えた人である。「少にして学べば、すなわち壮にして為すことあり。壮にして学べば、すなわち老いて衰えず。老いて学べば、すなわち死して朽ちず」はその言葉である。学ぶということは、生涯を通じての宝である。

社会参加の意欲もなく、努力もせず、ただぶらぶらしている若者が多くなっているという。まず、やってみることである。井伏鱒二さんではないが、「それでもやるしかない」のである。高齢化の時代である。若いうちに、老いてから磨きをかける何かを持つ努力をすることである。

春は悩みのときであるが、勇気をもって新しく第一步を踏み出すときでもある。

もくじ

政 策	出産・子育て支援策の充実が必要 = 少子化社会白書.....(2)
フォーラム	釣りキチ三平の里づくり = 秋田県増田町.....(6)
情 報	カプセルNOW & NEW(9)
情 報	新任都道府県町村会長の略歴 (静岡県).....(10)
随 想	村づくりへの理念ば「元気」.....鹿児島県町村会長職務代理者・宇検村長 元山三郎.....(11)

少子化社会白書

出産・子育て支援策の充実が必要

人口規模が小さい自治体ほど出生率高く

政府はこのたび平成16年版少子化社会白書を公表した。平成15年に成立した少子化社会対策基本法に基づき、初めてとりまとめられたもの。

白書によると20代、30代の未婚率が上昇しており、国民のすべてが結婚する「結婚社会」が崩れつつあると指摘。今の少子化傾向が続くと平成18年には出生数と死亡数が逆転し、翌年には人口が減少する「人口減少社会」が到来すると警告している。

また白書は都道府県別、市区町村別の出生率にも触れており、それによると離島や人口規模が小さい自治体ほど都市部の自治体に比べて出生率が高いと分析している。

さらに少子化の流れを変える好機として、平成17年からの5年間は、第2次ベビーブーム世代の女性が出産適齢期にあることから、出産や子育て支援の施策を積極的に展開することが重要であると強調している。

▼日本の人口の変化

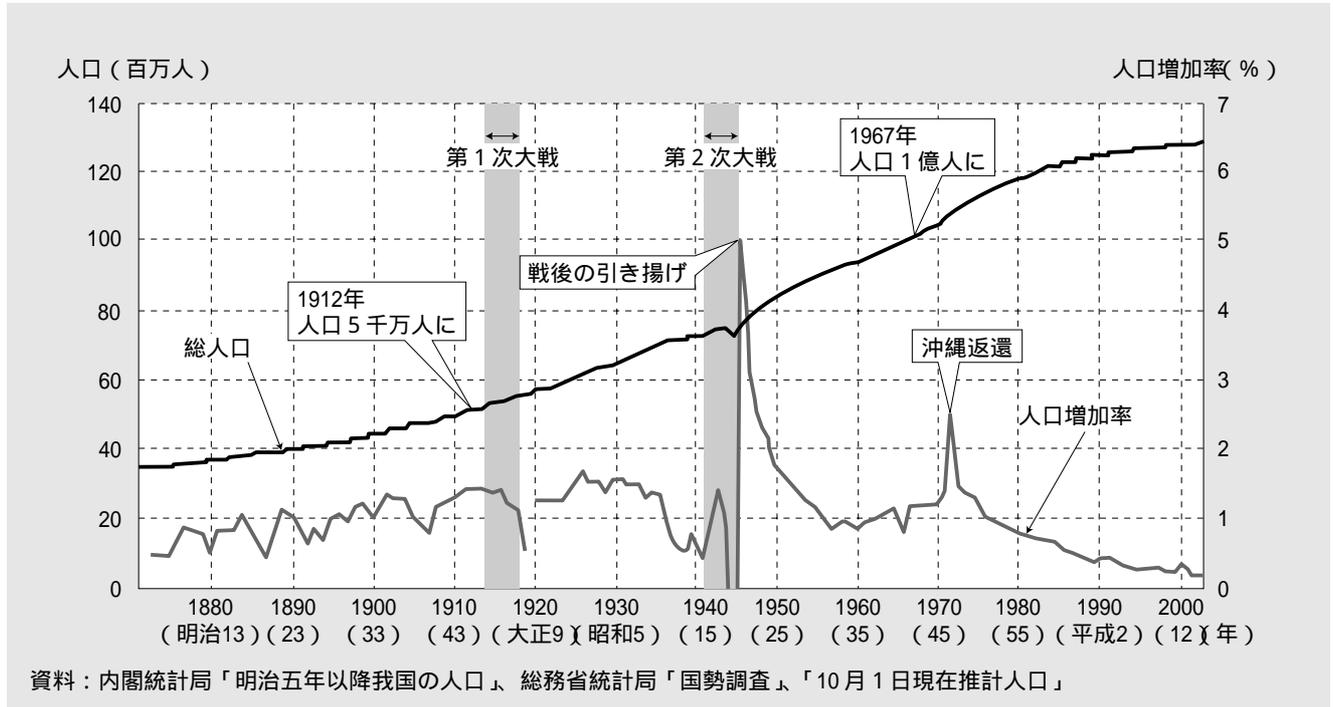
合計特殊出生率が人口置き換え水準(2.08)をはるかに下回り、かつ、子どもの数が高齢者人口よりも少なくなつた社会を「少子社会」と呼ぶが、わが国は、1997(平成9)年に子ども数が高齢者人口よりも少なくなり、この年以降、少子社会となった。

1872(明治5)年の日本の総人口は3,480万人であったが、その後毎年平均1%前後の伸び率で増加し、1967(昭和42)年には、1億人を超えた。2003(平成15)年10月時点では1億2,760万人と、過去最高の人口となっている。しかし、まもなく、総人口が減少する、人口減少社会を迎えようとしている。

第1次ベビーブーム期(1947(昭和22)～49(昭和24)年)の出生率は年間約270万人、第2次ベビーブーム期(1971(昭和46)～74(昭和49)年)には約200万人であったが、1975(昭和50)年に200万人台を割り込んでから出生数の減少が続いている。合計特殊出生率も、1970年代半ばから約30年間、人口置き換え水準を下回っている。2

政 策

図1 総人口及び人口増加率(1872~2003年)



この30年間の変化をみると、すべての都道府県で合計特殊出生率の水準は低下しており、東京都は、2003年に0.9987とはじめて1を割った。出生率の低下傾向は、地域差はあるものの、全国的に同じよう

に進んでいる。

▼都道府県別、市区町村別の出生率

都道府県の合計特殊出生率をみると、2003(平成15)年の場合、全国値1.29を上回る都道府県は36、下回るところは11であった。最も高いのは、沖縄県(1.72)であり、以下、福島県(1.54)、鳥取県(1.53)、佐賀県(1.51)の順となっている。最も低いのは、初めて1を割った東京都(0.9987)であり、以下、京都府(1.15)、奈良県(1.18)、北海道、千葉県及び大阪府(1.20)の順となっている。沖縄返還後、沖縄県の出生率は常に全国で一番高いが、1975(昭和50)年と比較すると2.88から1.72へと減少しており、落ち込みの幅が最も大きい。この30年近くの間の変化をみると、すべての都道府県で合計特殊出生率の水準は低下しており、少子化は、地域差があるものの全国的に同じよう

に進んでいる。

一方、全市区町村の合計特殊出生率(1998(平成10)年から2002(平成14)年の間の平均値)では、合計特殊出生率1.40以上1.70未満

に全体の約53.1%という最も多くの市町村が分布し、1.0未満については、約0.9%、1.00以上1.40未満に約25.1%、1.70以上2.00未満に約18.5%、2.00以上に約2.5%が分布している。

合計特殊出生率が最も高い市区町村は、沖縄県多良間村の3.14を最高に、以下、鹿児島県天城町(2.81)、東京都神津島村(2.51)となっており、沖縄県や鹿児島県の離島部が目立っている。

一方、低いところでは、最低は東京都渋谷区の0.75であり、以下、目黒区(0.76)、中野区及び杉並区(0.77)であり、東京都などの大都市の区部が目立っている。

また、都道府県の中で合計特殊出生率が高い自治体と低い自治体と比較すると、高いところは、離島や人口規模が小さい自治体が、低いところでは各都道府県の都市部が多く目立っている。

▼出生の動向の特徴

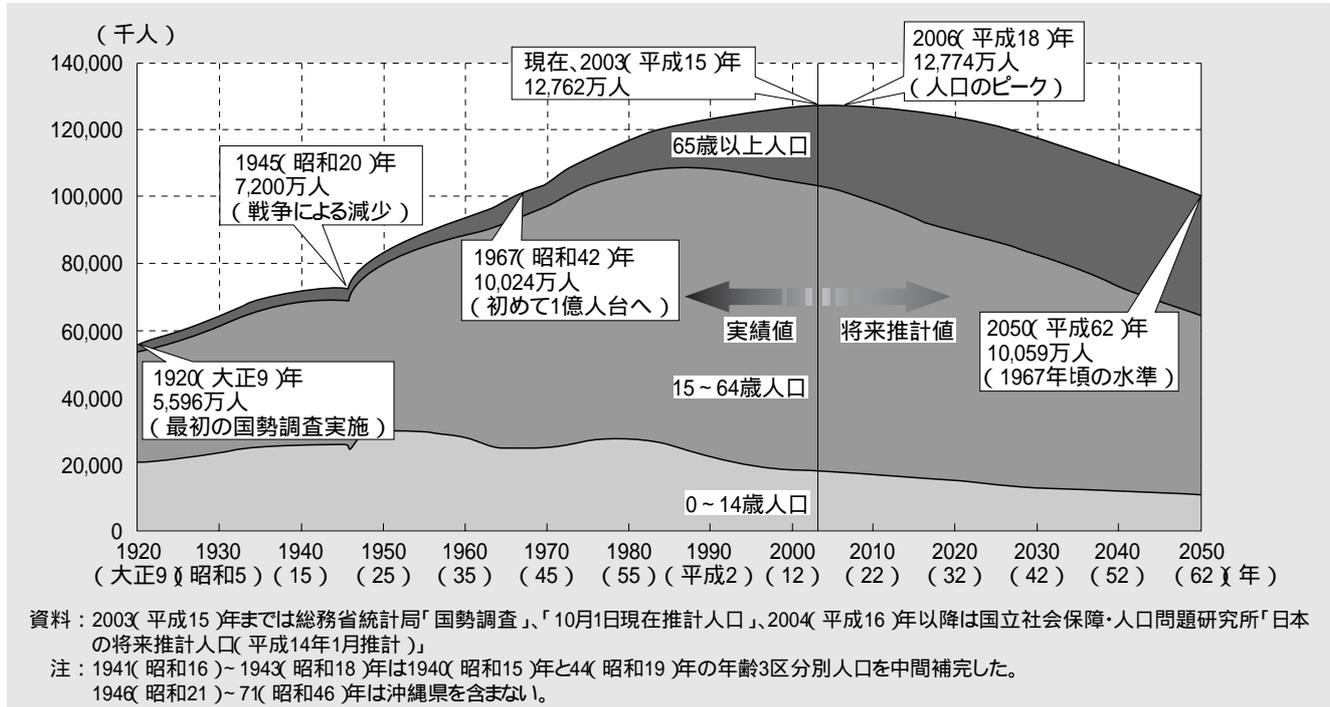
出生数の減少は、わが国の年少人口(15歳未満人口)の減少をもたらした。2004(平成16)年4月1日現在、1,780万人、総人口比13.9%と、いずれも過去最低となっている。諸外国と比較しても、わが国が最も低い水準となっている。

平均初婚年齢は、2003(平成15)年で、夫が29.4歳、妻が27.6歳と、晩婚化(初婚年齢が上昇すること)が進んでいる。30年前と比較して、夫は3.7歳、妻は2.9歳遅くなっている。

母親の出産時平均年齢は、200

03(平成15)年には、出生数は112万人、合計特殊出生率は1.29と、いずれも戦後最低の水準となった。

図2 わが国の人口構造の推移



▼少子化が進行している原因

わが国において少子化はなぜ進行してきたのだろうか。少子化の原因やその背景にある要因について、これまで様々な指摘がなされてきたが、これらの中で主な事項を取り上げ、最近のデータを基に分析する。

1980年代以降、25～34歳の未婚率が上昇しており、2000(平成12)年では、男性の場合、25～29歳では69・3%、30～34歳では42・9%、女性の場合、25～29歳では54・0%、30～34歳では26・6%となつている。

3年では、第1子が28・6歳、第2子が30・7歳と、以前と比較して晩産化(出生時年齢が上昇すること)が進んでいる。第1子を生んだ母親の約6割が20代、約3割が30代となっている。

年齢階級別の出生率の推移では、1980年代以降、30～34歳の出生率が高まっている。しかし、「25～29歳」の出生率の低下が大きく、全体として少子化傾向を招いている。

出生コホート(ある時期に出生した人を一つの集団としてとらえたもの)別に出生動向の推移をみると、第1次ベビーブーム期以降出産期を迎えた世代では、2・2人前後と安定した水準を維持してきた。しかし、最近では、1990(平成2)年前後に結婚した夫婦(1960年代生まれの世代)から出生児数が低下しており、1960年代以降の世代から夫婦の出生力(夫婦の完結出生児数)が低下してきた傾向がうかがえる。

わが国では、子どもは結婚により生まれてくる場合が大半であるので、未婚化の進展が少子化につながっている。1970年代から2000年までの間に晩産化の進展の速度が速くなっている。晩産化により出生年齢が上がり、少子化につながる。

生涯未婚率も近年上昇し、2000年では男性12・6%、女性5・8%となっており、国民のすべてが結婚するといふ「皆婚社会」が崩れつつある。未婚の理由としては、「適当な相手にめぐり合わない」、「必要性を感じない」、「自由や気楽さを失いたくない」、「結婚資金が足りない」があげられている。

▼人口減少社会の到来

わが国の人口は、2006(平成18)年にピークを迎え、2007(平成19)年からは減少に転じると予想されている。総人口が減少に転じる

「第12回出生動向基本調査」(2002(平成14)年)によれば、「理想子ども数」(理想的な子どもの数)と「予定子ども数」(実際に持つつもりの子どもの数)を結婚持続期間が0～4年の夫婦に尋ねると、理想子ども数(2・31人)＜予定子ども数(1・99人)とも、上の世代より少ない。近年の出生動向とあいまって、若い夫婦の出生力の低下傾向がうかがえる。

また少子化の原因の背景として、仕事と子育てを両立できる環境整備の遅れや高学歴化

結婚・出産に対する価値観の変化

子育てに対する負担感の増大

経済的不安定の増大等

が指摘されている。

わが国では、子どもは結婚により生まれてくる場合が大半であるので、未婚化の進展が少子化につながっている。1970年代から2000年までの間に晩産化の進展の速度が速くなっている。晩産化により出生年齢が上がり、少子化につながる。

生涯未婚率も近年上昇し、2000年では男性12・6%、女性5・8%となっており、国民のすべてが結婚するといふ「皆婚社会」が崩れつつある。未婚の理由としては、「適当な相手にめぐり合わない」、「必要性を感じない」、「自由や気楽さを失いたくない」、「結婚資金が足りない」があげられている。

わが国では、子どもは結婚により生まれてくる場合が大半であるので、未婚化の進展が少子化につながっている。1970年代から2000年までの間に晩産化の進展の速度が速くなっている。晩産化により出生年齢が上がり、少子化につながる。

生涯未婚率も近年上昇し、2000年では男性12・6%、女性5・8%となっており、国民のすべてが結婚するといふ「皆婚社会」が崩れつつある。未婚の理由としては、「適当な相手にめぐり合わない」、「必要性を感じない」、「自由や気楽さを失いたくない」、「結婚資金が足りない」があげられている。

政 策

のは、明治以降、第2次世界大戦の一時期を除いて、わが国にとつて初めての事態である。2006年から、死亡数が出生数を上回る人口の自然減が始まり、2020年代には、自然減が70万人台にもなると見込まれている。

14歳以下の年少人口は減少を続け、2020年頃には全人口の12%となる。少子化の進展、人口減少の一方で、高齢化が進展し、2020年代には総人口の10人に3人が65歳以上の高齢者となる。

2000(平成12)年から2030(平成42)年にかけて、都道府県では滋賀県以外の都道府県は人口が減少する。市町村では、87%のところて人口が減少すると予想されている。

▼少子化の社会的・経済的影響

少子化による世帯規模の縮小、子どもがいる世帯割合の減少を通じて、単独世帯やひとり親と子の世帯の増大等の世帯類型の多様化が進むとともに、児童数や小・中学校の減少、子どもの社会性発達に関する影響、地域社会の活力の低下など、様々な社会的影響があげられる。

たとえば、子ども自体の数やきょうだい数の減少は、子ども同士が切磋琢磨し社会性を育みながら成長していくという機会を減少させ、自立したたくましい若者へと育っていくことをより困難にする可能性がある。

少子化の経済的影響として、生産年齢人口や労働力人口の減少を通じて、経済成長率等経済の活力に対するマイナスの影響、消費や貯蓄に對する影響があげられる。生産年齢人口が減少していく中で、一定の経済成長率を維持していくためには、技術革新や規制改革、若年者の労働能力の開発、中高年者の労働能力の再開発等、労働生産性を高めていく取組が必要となってくる。

社会保障給付費の増大に伴い、労働力人口一人あたりの社会保障負担も増加していくため、社会保障制度における給付と負担の公平や、現役世代の負担増を緩和していくための制度見直しや給付の効率化が不可欠である。また、現在の社会保障給付の中で大きな比重を占めている高齢者関係給付を見直し、これを支える若い世代や将来世代の負担増を抑えるとともに、少子化対策に関する施策を充実させる必要があると考えられる。

少子化や人口減少が急激に進めば進むほど、それに対応した経済社会システムの構築が困難となる。総人口や生産年齢人口の急激な低下を招かないためにも、出生率の低下を反転させていくような取組が必要である。

▼将来の人口の動向

国立社会保障・人口問題研究所の「平成14年1月将来推計人口」(中位推計)は、1985(昭和60)年生まれの女性について、晩婚化が進み平均初婚年齢は19.50(昭和25)年生まれの24.4歳から27.8歳へ、未婚化が進み(生涯未婚率は19.50年生まれの4.9%から16.8%へ)、夫婦出生力も低下する(夫婦の完結出生児数は1.948(昭和23)→52

(昭和27)年生まれの2.14人から1.72人へ)と仮定し、この結果、合計特殊出生率は2000(平成12)年の1.36から2007(平成19)年の1.31まで低下し、その後2032年から1.39になることを前提としている。この結果、2050年には、総人口が10,059万人と、現在2003(平成15)年よりも2,700万人減少すると推計されている。

近年の出生数は、毎年2~3万人減少しており、依然として少子化傾向はとどまることがない。合計特殊出生率(2003年1.29)も、中位推計が前提とした数値(同1.32)より低く推移している。

出生率の今後の変化については、晩婚化や未婚化の状況、夫婦出生力(夫婦の完結出生児数の状況)などがどのように変化するかによる。これらの変化の背景には、育児と仕事の両立の状況や、結婚・出産に対する価値観の変化、子育て負担に対する対応や子育て支援策の状況、若者の経済的安定の状態等、様々な要因が存在する。今後、少子化の流れがどのように変わり、どう反転していくかは、これからの少子化に対する取組や国民の意識・行動の動向にかかっている。

内閣府の特別世論調査(2004(平成16)年)によると、低い出生率が続いていることについて、国民の約8割の人が危機感を感じている。中高年では、危機感を感じている人の割合が高く、50代が最も高くなっている。ただし、20代では約6割と他の年代よりも低く、約2割は危機感を感じていない。

1990(平成2)年のいわゆる1.57ショック以来、政府は、エンゼルプランや新エンゼルプランの策定とその実施等、様々な少子化対策を推進してきた。しかしながら、合計特殊出生率の低下傾向には歯止めがかかっていない。こうした現状を踏まえ、2004年に策定された少子化社会対策大綱では、少子化の流れを変えるための施策を強力に推進していくこととしている。

2004年6月、経済財政運営と構造改革に関する基本方針2004でも、少子化対策の充実を図り、「家庭の役割を大切に、子どもを生み、育てることに喜びを感じる」とができる社会を構築する」とこととしている。

▼少子化対策の好機

2005(平成17)年からの5年間は、人口減少に転じるなどわが国の人口の転換期であるが、一方で、第2次ベビーブーム世代を中心に20代後半から30代前半までの人口数が800~900万人台と多い時期である。人口構成上、出生数や出生率の回復にとつて重要な時期である。2010(平成22)年以降は、この年齢層の人口は減少していく。

少子化の流れを変えるためには、これから2010年頃までの数年間に、この第2次ベビーブーム世代を対象の中心に、安心して子どもを生み育て、子育てに喜びを感じることができるよう、あるいは子どもが出生や子育てにメリットがあると認識できる施策を積極的に展開することが重要であると考えられる。

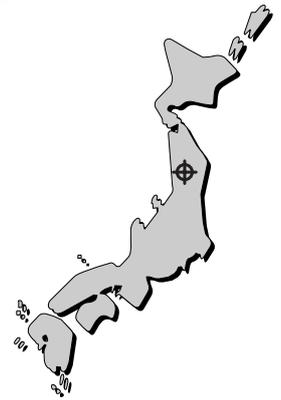
●町村独自の地域振興事例紹介●

現地レポート

釣りキチ三平の里づくり

～いい人いい里いきいき増田～

まんが美術館



秋田県

ます だ まち
増田町

増田町は、古来から近郷一帯の交通と物資集散の要衝であり、4百年近い歴史を有する「増田の朝市」は、今でも2、5、9の付く日に開設されており、近郷近在から新鮮な野菜や旬の山菜を求める人々で賑わっていることが、そつしたことを物語っております。幾多の歴史的遍歴を経て、明治維新により平鹿郡に組み込まれた後の西暦1895年には町制を施行、今年110年を迎えた歴史豊かな町であります。昭和30年に西成瀬村と合併、昭和32年には旧駒形村の一部を編入し現在に至っております。

地勢をみるとき雄物川の支流である成瀬川、皆瀬川が地域の主軸を形成

増田町の概要

増田町は、秋田県の南部に位置し、奥羽山脈の西麓に深く入りこんだ南北に細長い町であり、約7割は緑深い林野で占められ、耕地面積は僅か18%程と、いたつてのどかな田園風景を醸し出している町であります。気候は比較的温暖ですが、冬期は積雪が多く昭和46年に特別豪雪地帯の指定を受けるなど、典型的な積雪寒冷地帯であります。



フォーラム

成しており、河川の両側にはそれぞれ扇状地や河岸段丘の豊かな土地が開けておりますが、それほど広い面積を有しているわけではありませぬ。従って、こうした豊かな土壌の低地から傾斜地にかけて、水田、畑地、樹園地といった順に効率的に利用されております。特に、土壌もさることながら寒暖の差が大きいため、りんごの栽培の適地として知られ、真人山麓で約3百ヘクタールほど栽培され、秋田県内においても美味しいりんごとして名高い「平鹿りんご」の主産地を形成しております。高位平準化しているりんご栽培技術を活かして、現在は桜桃、桃、梨などといった果樹の複合化が進んでおります。しかし、山間地の狭隘な土地に点在する集落で構成されている西成瀬地区は、耕地面積が極端に少ないため、林業の衰退と共にその収入源を農林業以外に求めざるを得ず、従来からの素朴にして温もりのある地域の集落活動やコミュニティ活動が



天下森ふれあい農園

著しく低下してきております。逆に恵まれた自然環境のなかで、調和のとれた山間部の開発が地域づくりに活かせるのではないかと、いろいろ検討を加えてきたところであります。

●山間部における地域おこし

「醇平」として人情溢れる人々と、豊かにして美しい自然とが共生し、古来から集落コミュニティ活動が営々と育まれてきたところであり、近年、少子高齢化、過疎化の波が否応なく押し寄せて、集落の維持も含め、地域に対する愛着心さえ希薄となり、地域住民の心の過疎が懸念される状況となってきたところであります。西成瀬地区でも山間部に位置する狙半内地区は、冬期には2センチ以上の積雪、そして行き止まり、外部との接触の機会の少ない地域であり、それがゆえに開発が遅れ、逆から見ますと手つかずの状況で、いわゆる一種のサンクチュアリ(聖域)ともいえる地域でありました。しかし、春からは緑につつまれ、水清く、清澄な大気、まさに山紫水明の地であり、町にとって自然的財産といえる地区であります。山間地特有の弊害感、閉塞感が優先する旧態然とした受身主体の地域住民の意識を、プラスチック変革することが喫緊の課題でありました。

こうした豊かな自然景観を活かし、調和のとれた開発が、山間地域特有の閉鎖的、保守的、依存的な意識を脱することにより、自立し、

そして地域経営の視点を持つていただけではないかということ、真の意味での地域住民参加型の地域おこしを目的として「釣りキチ三平の里」整備構想の実現を目指すことにより、町全体の底上げにつながる。たいものと考えたところであります。

この地域は、町の名誉町民でもあり、代表作「釣りキチ三平」や「マタギ列伝」などで有名な漫画家矢口高雄先生の出身地でもあります。先生は、「人」「自然」「ふるさと」を常にモチーフとしたテーマの漫画を描いており、「ボクのふるさととは奥羽山脈の山麓の中の寒村」としてこの地域を、作品で紹介しております。「日本人は、かつて自然の中で、たおやかな時の流れに身をゆだねて生活していた。そんな時代があったことを作品を通じて伝えたい」と話されており、その先生が、自分の故郷が自然をテーマとして全国的に交流ができることは素晴らしいことだと、全面的にご協力いただくこととなったものであります。イメージ



真人山から鳥海山を望む

ジキヤラクターとして「釣りキチ三平」くんを採用。現在、様々な施設に先生の漫画を活用して、公共の場に親しみとくつろぎの空間を演出しております。

●地域資源を活かしたまちづくり

交流拠点となる施設の整備として、天下森地区をスポーツ・レクリエーションエリアとして、初心者から中級者などや、家族連れが楽しめるファミリーゲレンデとしての「天下森スキー場」、溪流魚の釣りや森林浴、キャンプが楽しめる「天下森ふれあい農園」、平成5年には、上畑地区を交流エリアとして、湯の効能が評判の「緑地管理センター(日帰り温泉施設) ゆーらく」を開設。そして平成12年には「釣りキチ三平の里」整備構想の中核をなす施設として、四季折々様々な色彩を醸し出し、清閑な地にたえず滞り型宿泊施設「さわらび」を開設。ゆつくりとくつろげるよう気を配っております。

立地条件からして中高年齢層の方々のご利用が多いのが特徴となっており、年間宿泊客約1万人、日帰り利用客約4万人の方々にご利用いただいております。「さわらび」とは、芽を出したばかりのワラビのことで、万葉にもうたわれていることから、まさにこの地の自然を表現していることから名づけたものです。「ご利用いただいている皆

フォーラム

全国さくら名所百選「真人公園」



ております。また、昔ながらの田舎そばを復活させようということで、地元の方々が研究を重ねた結果、玄そばの挽きたて、打ちたて、茹でたての「そばの三たて」、そして、地粉、薬味も自家製にこだわった「三平そば」を供しており、手打ち独特の腰の強さで大変好評を博しております。

このような取り組みの結果、確実に地元農家の生産意欲と楽しみが向上するとともに、コミュニティの醸成が図られ、地域に活力が見られるようになりました。

町中心部には、「釣りキチ三平の里」の一翼を担う施設として、平成7年全国的にユニークな本格的なまんがミュージアムを開設。矢口先生のフィールドワークを紹介すると共に、国内外の著名漫画家約百人の原画やプロフィールを常設展示いたしました。全国に「夢と楽しさ創造」といったものを発信しております。

年2回有名な漫画の先生を招いての特別展示会を開催、ファンとの交流などを通じ、漫画文化の発展に寄与しております。年間15万人を超える来館者に感動と夢を与えております。この漫画美術館と山間部の各施設が、有機的な連携をとり、町全体の活性化を図っているところであります。

こうした事業展開によって、活発な地域間交流が図られたことにより、地域に潜在する活力が引き出され、旧態然としていた山間地の人々の意識は確実に変化してまいりました。

公園内の、リンゴの唄記念碑(右)と並木路子さん顕彰碑(左)



た。このように、今までになく意欲的にそして積極的に事業参加するなど、これらがもたらした様々な波及効果は、予想された以上のものがあり、まことに嬉しい限りであります。

●「いい人、いい里、いきいき増田」の実現に向けて

当町におきましても、農業の担い手の高齢化が顕著になり、また、農業に見切りをつけた若い世代も確かに増えてきております。しかし、これでは農村そのものの機能が失われることとなります。このため、地域と連携いたしまして、平成12年度公設民営型の農業公社を設立、基本的には農地の荒廃を防ぐための農作業の受委託を中心としながら、安定した雇用と経営的な採算性を考え、「内水面魚類養殖施設」「農産物直売所」や「天下森スキー場」「公営施設」の受託事業、更には宿泊施設への人

材派遣・食糧供給等を行っているところであります。こうした結果、年間を通じて安定的な経営と地域雇用を提供することができ、若い人材や新規就農が確保され、集落の再生や地域コミュニティの活性化が図られているところであります。

辺鄙であるということは、そこに豊かな自然が残っていることであり、ある程度条件が整えば地域の活性化が図られるものと思います。昭和63年当時、町全体の観光入り込み客数25万人程度でありましたが、平成15年度には約50万人と飛躍的な伸びをみせておりますし、当然滞在型の客数も相対的に増加しております。これは、一気に事業を展開したものではありません、着実に少しずつではありますが、効果ある事業を配置し、成果を徐々にあげることによって、地域住民のやる気を引き起こし、積極的に事業参加へとつながったものと考えております。

そして、その地域の人々が中山間地を、魅力ある地域と自信をもって自己表現できる、つまり、まちづくりの原動力といえる「プライド・オブ・プライス」(地域の誇り)を持てるようにしていきたいものと考えております。今後の事業展開におきまして、地域住民のアイデンティティを引き出す地域づくりを展開し、増田町のキャッチフレーズである「いい人いい里いきいき増田」の発現に向け努力して参りたいものと思っております。

(増田町長 石山米男)

様に楽しんでいただくため様々なこだわりをもって運営しておりますが、その一つとして旅の楽しみ「食」、この地でなければ味わうことのできないものとして考えたのが、山ぶぐ(なまず)料理「川魚特有の臭みがなく『ぶぐ』に似た身と食味が美味しいと評判となっている」であります。

平成9年度から内水面魚養殖事業として、食用ナマズの試験研究を重ね、本格的な生産に乗り出したところであります。ナマズは味がたんぱくで、刺身、天ぷら、マリネ、蒲焼として出したところ、たちまち人気料理となったものであり、今後町の特産品として大いに期待しております。この珍味を食べに県外からわざわざ訪れる観光客も多く見られます。機会がございましたら多くの皆様には是非ご賞味いただきたいものと思っております。

近くにある農家グループの直売所では、旬の野菜や山菜の直売を行っ

情 報

カプセル Now & New

アイヌ文化に関する 北海道
指導者向け手引書を作成 白老町

アイヌ文化にゆかりの深い町
教育委員会は、アイヌ文化に関
する指導者向け手引書を作成
し、町内小中学校の教員に配布
した。総合的な学習の時間など
でアイヌ文化の理解促進を図つ
ていくのがねらいで、子どもた
ちの発達段階に応じた指導目標
などが具体的に記されている。

高齢者5人に祝い金 山形県
100万円を贈呈 朝日村

村は、50年以上村内に在住
し、今年1月に数えて100歳
を迎えた高齢者5人に祝い金1
00万円を贈呈した。同制度は
平成7年に長寿者への感謝の気
持ちなどを込め創設されたが、
複数の対象者への贈呈は今回が
初めて。合併を控えており、村
としての贈呈は最後となる。

無料のレンタサイクル 栃木県
をスタート 朝日村

町は、バス利用者や観光客な
どに自転車を無料で貸し出す
「ここにレンタサイクル」をス
タートさせた。自転車は町総合
福祉センターと、なす風土記の
丘資料館小川館」の2か所のバ
ス停近くに各10台配置。バスの
待ち時間に近くの散策などに利
用してもらう。

里山保全を目的とした神奈川
公園の基本計画を策定 大井町
「いこいの里・相和」整備構
想を推進している町は、その中

核施設となる、里山公園(仮称)
の基本計画を策定した。同公園
は、観光、農業振興、里山保全
などを目的に、相模湾や富士山
などが望める約20haの敷地に整
備していく計画で、平成18年度
の着工を目指している。

悪質な税滞納者等
対応する条例を制定 長野県
辰野町

町は、悪質な税滞納者等に対
応していくため、「町税等の滞納
に対する特別措置に関する条
例」を制定した。町税や介護保
険料、水道料金などの悪質な滞
納者については、督促や差し押
さえのほか、一定の行政サービ
スや許認可の停止、氏名公表が
できると規定している。

露店出店の事前申請を 静岡県
義務つけた条例制定 河津町

町は、露店出店に当たり町へ
の事前申請と許可証掲示を義務
づけた「露店営業者管理条例」
を制定、4月1日から施行す
る。毎年2月に開催され多くの
観光客でにぎわう「河津桜まつ
り」での露店と観光客のトラブ
ルを防止するのがねらい。平成
18年の桜まつりから適用する。

町の自然や文化財等を 滋賀県
紹介する記録映画を制作 高月町

町は、町制施行50周年を記念
して、町の自然や文化財などを
紹介する記録映画「古墳と観音
の里」の制作を進めている。上
映時間は90分で、国宝となつて
いる渡岸寺の十一面観音像をは
じめ、貴重な文化財や古墳、自
然や日常風景などを記録してい

く内容で、3月に完成の予定。
課制から部課制へ 大阪府
機構改革 能勢町

町は、町長部局の7課を部級
の町長公室を含め4部7課へ、
また、教育長の下に部長級ボス
トの教育次長を新設するなどの
機構改革を実施した。新設の部
長に権限を移譲するとともに、
係制をとって対応窓口を明確に
し、町民に分かりやすい行政運
営を図っていくのがねらい。

統一した様式で 和歌山県
温泉表示 白浜町

多くの温泉客が訪れる町は、
町内約180の宿泊施設を対象
に、統一した様式で温泉表示を
行う準備を進めている。温泉の
不当表示を排除し、温泉客に安
心して入浴施設を楽しんでもら
うのがねらい。「温泉」「水道水
または井戸水」「入浴剤の使用の
有無」などを明記する。

風力発電施設建設に 鳥取県
三二公募債発行 名和町

町は、建設している風力発電
施設の建設費の一部にするた
め、町民から資金を募る三二公
募債「太南海(たくみ)債」を
発行した。町民に環境意識を高
めてもらうのがねらいで、発行
額は5000万円。施設は1月
末に完成し、年間228万キロ
ワットの発電を見込んでいます。

ブランド米「マルイ米」 島根県
を売り出し 飯南町

町は、合併前の赤来町内で収
穫されたコシヒカリをブランド
米「マルイ米」として売り出し

ていく。「マルイ米」は昭和初期
から飯石郡などで栽培され、第
2次大戦後に姿を消した。品種
は不明だが、品質や味は高い評
価を受けていた。町ではブラン
ド米として育てていく考え。

行財政改革プログラム 山口県
を策定 平生町

町は、当面単独で町政を運営
していくため、平成17年度から
3年間の「行財政改革プログラ
ム」を策定した。行政の簡素・効
率化、組織・機構の簡素・効率
化、定員管理の適正化、給与制
度の見直し、財政の健全化対策
を柱に行財政改革に取り組む。

「優良田園住宅建設促進 福岡県
基本方針」を策定 志摩町

町は、「優良田園住宅建設促
進基本方針」を策定した。豊か
な自然環境が残された地域に敷
地500平方m以上、2階建て
以下のゆとりのある住宅建設を
進めるのがねらいで、モデル事
業の事業予定者を決定し、平成
17年度中には住宅建設を進めて
いきたいとしている。

どぶろく製造等の規制 熊本県
が緩和された特区認定 三加和町

町は、農家を宿泊施設として
利用する上での規制やどぶろく
製造における規制の緩和を特区
として提案し、認定を受けた。
都市住民などを対象にしたグ
リーンツーリズムなどを促進
し、農村と都市との交流、町の
活性化を図っていく。

カプセル Now & New

情 報

新任都道府県町村会長の略歴

静岡岡町村会は1月13日の臨時総会
会で次のとおり会長を選出した。

(1月17日付就任)

静岡岡町村会長
志太郡岡部町長

井田 久義
昭和11年6月25日生



【住所】静岡県志太郡岡部町三輪四七
九番地

【町長に当選するまでの経歴】 昭和
55年静岡県議会議員 平成2年岡部
町長

【町長としての当選回数】 4回

【町村会関係の経歴】 平成4年7
年静岡岡町村会理事 12年静岡岡町
村会理事 13年静岡岡町村会副会長

【主な業績】 玉露の里建設 岡部町
農村改善センター建設 おかへ巨石
の森公園新設 児童育成計画作成
放課後児童クラブ開設 保健福祉セ
ンター建設 柏屋建設

【趣味】文化財巡り、古美術鑑賞

【家族】妻

「温浴シンポジウム」のお知らせ

フランス大使館
経済部主催

ベビーブーマーも60歳を迎える社
会の急激な変化、急激な高齢化、健
康管理、ストレス社会等は、多くの
先進国が抱える問題です。

海と温泉に恵まれた日本で、新し
い形の海洋・温浴療法を紹介し、地
方・都市経済の活性化、国内観光の
発展、雇用の増加等の参考になれば
幸いです。

1、日時

3月11日(金) 9時30分～12時

2、場所

東京ビックサイト

入場無料・登録制 定員150名

3、内容

「本場フランスの海洋・温泉療法の
紹介」

Dr.ロック(国立温浴研究所所長、
フランス温浴・気候学会温浴療法科
学委員会会長)

「地方自治体と民間運営センター
の共存法 DAX市の例」

DAX市役所担当者

「日本市場に適合できる勝ち組タ
ラソセラピーの可能性」

阿岸裕幸北海道大学医学部名誉教
授・小林英俊氏 JTB理事・観光マー
ケティング部長(宮地正典氏・テルム
マリン・パシフィック元総支配人)

4、問合せ先

フランス大使館経済部

ローゼンバーグ、井本

TEL: 03 54403 2336

「いつでも、どこでも、誰でも、何とでも」コミュニケーション

～ 情報通信技術(ICT)が開く“ユビキタス社会”の扉 ～

新しい時代を理解するために!

「シリーズ/u-Japan 政策研究ブックレット」

「情報通信政策・法制の動向に関する勉強会」(座長:総務省情報通信政策局総合
政策課長)の内容を小冊子により、全6回に亘り情報提供。第4回まで発行済み。

第1回「u-Japan 政策を展望する」(講師:座長 吉崎正弘氏)

第2回「電波開放戦略」(講師:電波政策課長 稲田修一氏)

第3回「u-Japan 環境の整備に向けて」

・インターネット・バックボーンの現状と課題 (講師:データ通信課調査官 秋本芳徳氏)

・電気通信分野における消費者保護 (講師:消費者行政課長 奥公彦氏)

第4回「デジタルネット社会を展望する」

・デジタル情報家電のネットワーク化に向けて (講師:通信規格課長 田中謙治氏)

・地上デジタル放送の推進に向けて (講師:放送政策課長 安藤友裕氏)

(第1回第2回各@400円・第3回第4回各@500円・送料別・各10部以上一括購入1割引)

財団法人 電気通信振興会

〒170-8480 東京都豊島区駒込 2-3-10 ホームページ: http://www.dsk.or.jp

TEL: 03-3940-3951 FAX: 03-3940-4055

購入申し込みメールアドレス: nethanbai@dsk.or.jp

随 想

村づくりへの理念は「元気」



鹿嶋町村会長
職務代理者
宇 村 長
元 山 三 郎

随
想

私の村、宇検村は、標高694メートルの奄美大島最高峰「湯湾岳」と、全天候型の良港「焼内湾」を有し、まさに海と山に囲まれた人口約2200人の過疎の村です。このたび町村会より「随想」執筆について依頼を受け、我が村を全国へ発信する絶好の機会であることから、筆を取らせていただいた次第です。

鹿児島から南へ383キロメートル、エメラルド・グリーン神秘的な海に囲まれた島「奄美大島」の南西部に位置し、そのたまたまいから「奄美の奥座敷・宇検村」と言われております。

先程の「湯湾岳」の頂上一帯は、国定公園に指定され、奄美で最も自然の豊富な村であります。国の天然記念物であるアマミノクロウサギ・ルリカケス等々、世界に誇

れる動植物が数多く生息している地域であり、「人と自然との共生」をテーマに、森林資源の有効活用に取り組んでおります。

又、「焼内湾」は風光明媚な恵みの海であり、ここでは黒マグロ、車エビ等を初めとする養殖漁業が営まれ、本土の各市場への出荷で賑わっております。雇用の場として、台風時の避難港としても重要な役割を果たしており、まさに宝の海です。

それと、私が最も誇りとしている事は「村民性」です。住宅・水道等の使用料が100%完納され、他の税収等も高い納税率を上げている事は他の自治体の範であり、奄美の諺で宇検村民を総称して「エーチ・ボレモン」と言っております。その意は、素朴・勤勉・争い事を好まない・正直者と言つ事であ

り、本村開びやく以来の精神文化の伝統が、今でも脈々と引き継がれていると言つことでしょうか。

さて、私は村長に就任して4期半ばを迎えましたが、1期目から共通している政治の理念は、我が村の「元気」がテーマです。そのための具体的な施策のいくつかを紹介させていただきます。

その一つに就任早々、本村の香りが高い、貴重な文化を後世へ伝えよつと言つことで出版事業を始めました。その時、私の後援会の有力者からそんな文化事業などしたら、次の選挙で落ちてしまうので、やめて橋の一つでも造つた方が得策であると、アドバイスも受けましたが、あえて挑戦いたしました。現在では、山・海・自然・文化の四編を出版し、現在、奄美を世界自然遺産登録への気運が盛り上がりつつありますが、その先導的役割を果たしたと内外から高い評価をいただいております。

また、毎年夏休みを利用して、青少年の国際性を高める目的で、中学2年生5名を対象にアメリカへホームステイに派遣し、青少年に夢を与え、村づくりの柱は人づくりであるとの考えに立って、小さな村の「元気」の効果を期待して実施しております。

本村には、農業基盤整備後の農用地の休耕地が多く見られ、これ

を解消しなくては、村民の村づくりへの気運も見られないと言つ事で、奄美の基幹作物である「サトウキビ」の振興なくして発展なし、を合言葉に植え付けを奨励し、現在では18ヘクタールまで面積が拡大されました。そのために、第三セクターによる「元気の出る公社」を設立して、現在では黒糖焼酎（れんと）の原料として、製品づくりまでの一貫体制が確立出来た事は、村民の大きな喜びでありました。

本村に於いては、既存の企画課を課名変更して「元気の出る課」とし、全国的にも珍しい課名と言つ事で、中央のマスコミ等からも注目されました。この様に小さな村であるがゆえに、村の個性や地域の特性を發揮し、過疎・高齢・少子化と閉塞感のただよつ中で、我が村の活性化に向けて村民それぞれが知恵を出し合い、「人が元気・村が元気・自然が元気」の、3つの元気をキャッチフレーズとして、地方の時代にふさわしい、個性あふれる、村づくりを村民と共に進めてゆく所存です。

終わりになりますが、宇検村には長い歴史にはぐくまれた、尊い文化遺産と自然が数多くあります。「全国の皆さん、元気との出逢いのため、一度は奄美へおいで下さい。」

ゆとりとやすらぎのひととき

ご家族でのご利用に便利な、ダブルベッドルームをご用意いたしました。
また、お一人様でゆったりとお過ごしいただくのに最適です。



洋室ダブル



洋室ツイン



洋室シングル

土・日・祝日はリーズナブルに

土・日・祝日のご宿泊は、平日料金の20%OFFでご利用いただけます。
金曜のご宿泊は、平日料金の15%OFFでご利用いただけます。

ご家族の皆様方も
割引料金で
ご利用いただけます。

シングル 119室
平日料金 9,817円(税・サ込)より
金曜日料金
シングル 8,344円(税・サ込)より
土・日・祝日料金
シングル 7,854円(税・サ込)より

ダブル 12室
平日料金 13,282円(税・サ込)2名利用 1名利用の場合11,072円(税・サ込)
金曜日料金
ダブル 11,289円(税・サ込) 1名利用 9,326円(税・サ込)
土・日・祝日料金
ダブル 10,626円(税・サ込) 1名利用 8,778円(税・サ込)

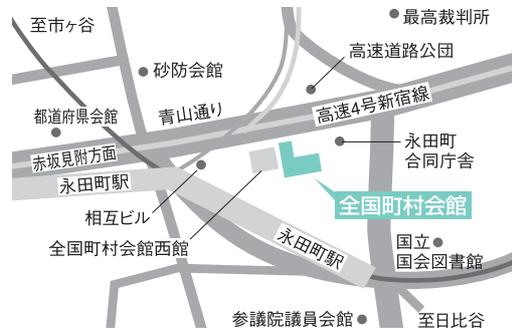
ツイン 17室
平日料金 18,480円(税・サ込)より 2名利用
金曜日料金
ツイン 15,708円(税・サ込)より
土・日・祝日料金
ツイン 14,784円(税・サ込)より

全国町村会館へのアクセスガイド

有楽線・半蔵門線・南北線「永田町」3番出口徒歩1分
丸の内線・銀座線「赤坂見附駅」徒歩5分
タクシー 東京駅から約20分

東京観光地へのアクセスガイド

東京ディズニーランド/地下鉄永田町駅からJR舞浜駅まで約34分
浅草/地下鉄赤坂見附駅から浅草駅まで約27分
東京タワー/地下鉄永田町駅から御成門駅まで約25分
東京ドーム/地下鉄永田町駅から後楽園駅まで約10分
東京都庁展望台/地下鉄赤坂見附駅から新宿駅まで約10分



市町村職員共済組合等の宿泊助成券がご利用いただけます。

ご予約・お問い合わせは



全国町村会館

TEL:03(3581)0471 FAX:03(3581)0220

〒100-0014 東京都千代田区永田町1丁目11番35号 <http://www.zck.or.jp/kaikan/index.html>